

目 次

第2版はしがき

はしがき

第I部 法の成り立ちを学ぶ

第1講 法の世界へようこそ

- I 法ってなに?003
- II 法学者はビートルズが嫌い?!004
 - 1 「法」の意味と役割004
 - 2 法の分類006
 - 関係性による分類/役割による分類/形式による分類
- III 法を学んで頭脳明晰!010
 - 1 法的思考力の養成011
 - カルネアデスの板/常識とバランス感覚
 - 2 社会科学的思考力の養成014

第2講 法の実現は裁判で——訴訟手続

- I ウルトランは問題児：裁判の意義019
 - 1 裁判制度の必要性019
 - 2 民事訴訟020
 - 3 刑事訴訟023
 - 刑事事件における登場人物/捜査/公判/少年事件の手続
- II 裁判官も木から落ちる?030
 - 1 裁判所の種類030

2	三審制	030
3	裁判の結果	032

第3講 裁判に関わる人々

I	餅は餅屋？	035
1	裁判官	035
2	検察官	036
3	弁護士	037
4	その他の法律家	038
5	裁判所書記官	038
II	12人の怒れる男：裁判員制度	039
1	裁判員の選び方	039
2	裁判員の仕事	040
3	裁判員制度の問題点	040

第4講 条文を読んでみよう

I	酔こんぶはおやつか？	044
1	はじめに定義ありき	044
2	条文解釈の方法	045
II	ゆいごん残すも遺言とならず？	049
1	条文の構造	050
2	法律の制定・公布・施行	053

第II部 様々な法を学ぶ

第5講 憲法はサイコー——憲法その1

I	近代憲法にワシントンもビックリ？	057
1	憲法の起こり	057
	中世ヨーロッパにおける憲法／近代国家における憲法	
2	憲法の特徴	059
3	日本国憲法の基本原理	060
	基本的人権の尊重／国民主権と象徴天皇制／平和主義	

II 自由もいろいろ：人権の分類 —————	063
1 自由権—————	064
2 参政権—————	064
3 社会権—————	064

第6講 権利のカタログ——憲法その2

I 通販カタログより見やすい？：人権のカタログ —————	067
1 基本的人権の分類—————	067
2 憲法13条と新しい人権—————	068
3 法の下の平等—————	071
II 個別の人権を学ぼう —————	073
1 思想・良心の自由（憲19条）—————	073
2 表現の自由（憲21条）—————	074
知る権利／情報公開請求権／表現の自由をめぐるその他の問題	
3 教育を受ける権利（憲26条）—————	080

第7講 統治のしくみ——憲法その3

I 疑う者は救われる？！ —————	083
II ライバルだけど良い仲間 —————	084
1 国会—————	085
唯一の立法機関／政党／二院制	
2 内閣—————	089
III がんばれ裁判所 —————	091
1 司法権の独立—————	091
2 司法権の意味—————	092
3 違憲審査制—————	094
付随的違憲審査制と抽象的違憲審査制／条約と違憲審査制	

第8講 犯罪が起きたら——刑法その1

I 罪と罰 —————	097
1 罪刑法定主義—————	097
2 刑法の役割と犯罪の種類—————	098
II フローチャートで犯罪成立 —————	099
1 構成要件該当性—————	100
客 体／実行行為／因果関係	

2 違法性	106
違法性阻却事由／違法性の本質	

第9講 悪いことをしても罰せられない?—刑法その2

I ああ無情：有責性	111
責任能力／故意・過失／違法性の意識／期待可能性	
II 犬か鹿か?：錯誤論	116
1 具体的事実の錯誤	118
2 抽象的事実の錯誤	119
3 違法性の錯誤	121
III 丑の刻参りとデスノート：結果が生じない場合	122
1 不能犯	122
2 中止犯	124

第10講 罰するということ—刑法その3

I 黒幕のスター達：共犯	128
1 正犯と共犯	128
2 間接正犯	130
3 共同正犯	131
4 共謀共同正犯	132
5 正犯と教唆犯	133
共犯従属性説と共犯独立性説／要素従属性の問題	
6 従犯	134
II クールヘッドとウォームハート：犯罪論と刑罰論	135
1 刑罰の種類	135
2 刑罰論	136
3 死刑をめぐる問題	138

第11講 私たちの生活ルール—民法その1

I 民法と大学祭執行マニュアル	141
II わらしべ長者の契約	145
1 契約から生じる債権と債務	145
2 契約の分類	147
有償契約・無償契約／双務契約・片務契約／分類の意味／諾成契約・要式契約・要物契約／典型契約・非典型契約	

Ⅲ 契 り	152
1 契約の拘束力	152
2 契約の成立時期	153

第12講 契約って？——民法その2

I 勘違いはいけどウソはダメ！：意思表示の問題点	156
1 効果意思の不存在	156
心裡留保／虚偽表示	
2 意思表示の瑕疵	158
錯 誤／詐欺による意思表示／強迫による意思表示	
II 契約よ安らかに：債権・債務の消滅	161
1 弁 済	162
2 代物弁済	162
3 更 改	163
4 免 除	163
5 供 託	163
6 混 同	164
7 相 殺	164
III どうしてくれるんだ！：損害賠償請求	164
1 債務不履行	165
債務不履行の3類型／解 除	
2 契約に基づかない債権・債務	167
不法行為／事務管理／不当利得	

第13講 所有するって？——民法その3

I 所有せずとも「寄せ」といえる?!：物権の性質	172
1 物権と債権	172
2 物権法定主義	173
3 一物一権主義	174
4 物権の種類	175
所有権／制限物権	
5 物権の変動：意思主義と形式主義	176
6 所有権の取得原因	178
特定承継と包括承継／承継取得と原始取得	
II タンポと湯たんぼ：担保物権	180
1 人的担保	180

2	物的担保	181
	担保物権の種類／質 権／抵当権／法定担保物権	

第14講 契約するのは誰？——民法その4

I	能力なしとは失礼な！	187
1	権利能力と行為能力	187
2	法 人	188
	法人の種類／法人の権利能力の範囲	
3	行為能力	189
	未成年者／成年被後見人／被保佐人／被補助人／任意後見制度	
II	できる人にまかせちゃえ：代 理	191
1	代理の意味	191
2	代理の要件	193
	代理権の授与／顕 名／代理人の権限内での行為	
3	自己契約・双方代理	194
4	無権代理	195
5	表見代理	197

第15講 家族に関わる法——民法その5

I	ナウな家族法で救えるか？！	199
1	親族関係	199
2	婚姻と離婚	201
	婚姻の要件／婚姻の効果／離 婚	
3	親 子	203
4	相 続	204
	法定相続人／相続財産の範囲／法定相続分／遺留分	
II	Last but Not Least：民法の基本原則と修正	207
1	民法の基本原則	208
	権利能力平等の原則／私的自治の原則／過失責任の原則／所有権 絶対の原則	
2	民法1条	209

事項索引